



FMレキオ「いきいきタイム」について



おもろまちメディカルセンター 玉木 正人

<始めに>

会員の皆様、特にこの原稿を読む時間さえ大変な、若手医師の皆様、初めまして、おもろまちメディカルセンターの玉木と申します。

私はミニFM局（FM80.6MHz:周波出力が弱いので、那覇市を中心にしか電波は届かないかも知れません）で、毎週水曜日の午後6時から7時までの1時間、生放送番組をかれこれ、5年間近く続けています。その日に話すテーマを予め決めて、原稿を書いて番組に臨んでします。インフルエンザ、感染性胃腸炎などのタイムリーな話題から頭痛、腰痛、各種癌や、沖縄県の肥満の状況、メタボの定義や対策などについてなど音楽を挟みながら、お話しさせて頂いています。

<医療とマスコミについて>

どうして、そんなことをしているかと言いますと、純粹に病気や健康の話題を提供しながら、医療人と一般の方との隔壁を埋めたいと思ったのが直接理由です。医療を提供する側と医療を受ける側の敵対関係がマスコミを通して生まれてきているのでは無いのだろうか、医療は信頼関係が根本なはずなのにお互いが不信感を持っているのではないかと日々悩んでいます。

例えば「たらい回しで患者さんが亡くなった」とマスコミが報道し、それを聞いたり読んだ一般の方としては、けしからんと思うわけです。しかし、医療現場では、これ以上受け入れられない状況や、この状態の患者を受け入れる訳にはいかない理由があるわけで、其処を丁寧に説明しない限り、溝は埋まらないと思うので

す。こんなに、一生懸命に仕事をしているのに非難ばかりでは堪ったものではないと私達医療側は思うわけです。

しかし、私達も、説明責任やスタンダードな医療をしていない医師や行政を放置した責任はあるのです。一般的に医師と患者間では患者さんは弱い立場です（勿論モンスターペイシャントはいます）。私自身はマスコミは力関係に差がある場合は、弱い側に立つ必要があると思っています。私達は「たらい回し」報道を単純な非難では無く「医療側だけでなく、社会全体で考えないといけない緊迫した状況である」ことをマスコミを通して伝えて行かなければならないと思います。又、マスコミ側へもそれを報道した責任者としてきちんと検証するように求めて行かなければならないのです。

<人に伝えることの大切さ>

若手の先生に伝えたいのは、相手が理解していなければ説明したことにはならないということ。病気そのものの勉強も必要ですが、素人に説明ができる能力を磨く必要も臨床医には求められています。もう四半世紀も前のことですが、私の研修時代に術前のムンテラと一緒に聞かして貰いました。その時私が主治医で執刀する大先輩が手術の説明をしたのです。患者さんやその家族5～6名いたでしょうか、「患者は胆石胆嚢炎で総胆管結石・膵炎も合併していますので、明日のオペは胆摘と総胆管切開・碎石後Tチューブを入れます」と・皆さん真剣に聞いていらして、最後に全員で「よろしくお願います」と頭を下げたのです。その後承諾書を

頂く時間となり、私一人となったため、折角皆様集まっていらっしゃいますので、補足させて貰ってもいいでしょうかと・・・その後30分ぐらいかけて、胆嚢の位置や機能、胆石や総胆管結石の話、手術の方法やT-チューブがどんな物であるかなどを話したら、初めて病気のことがあった、どんな手術をするのが判ったと感謝されたのです。

若手の皆様はベテランの医師よりは当然経験や知識不足です。でも一生懸命説明し伝えることは、医学部を卒業し国家試験を通った皆様なら誰よりも上手くやれるはずです。医療は信頼関係です。自分の意見や考えを、偏った情報からではなく、一般的に認められた教科書を通して学んだことを、言葉を選びながら伝えて欲しいと願っています。それは直ぐにでもできることですが、意識しないと学び取ることも出来ないのも事実です。

<公共性・普遍性>

公共の電波を通して放送すると言うことは、不特定多数の対象者に呼びかけることとなります。そこで重要なのは、公共性と普遍性ではないかと思っています。特に私の番組は生放送ですので、間違った情報や、病んでいる方を傷つけてしまう言葉を発してしまう可能性もあります。一度出た言葉は取り返しがつかないこともあります。これは、医師としても重要なことでもあります。若手のドクターであったとしても、患者側からすると、命を預ける存在です。

疲れたから、上級医から叱られたからと嫌な事があったとしても、ひとたび、患者サイドに立った場合、笑顔で言葉を選びながら話さないといけないのです。

私の場合、この様な訓練としては、ラジオ番組も良い経験になります。私の様な口べたな人間でもどうにか放送を続ける事が出来ていますので、若手の皆様も忙しいと思いますが、機会があれば、ラジオやテレビに出演されたら良いと思います。

<最後に>

忙しい若手医師の皆さんにおいては、いつも仕事に追われているかも知れません。しかし、私自身が怠け者ですから、自分にも言い聞かせているのですが、医療に入ったからには一生懸命勉強だと思っています。専門医、あるいは家庭医、色々な選択はあると思いますが、私達の不勉強は直接患者さんの不利益になることを肝に銘じないといけないと思います。理想論と言われるかも知れませんが、夢や理想がなくなったら辛いことだと逆に思ってしまいます。私は外科医ですが、FMレキオの放送の内容の殆どは私の専門以外の話となるため、専門外の勉強をするよい機会と思って続けています。

会員の皆様もお時間がございましたら、お聞き頂いてご感想をお知らせ下さい。まだ時間がなくて現実にはなりません、いつかは会員の先生方に参加して頂ける様な番組が出来ないかと希望を持っております。

